

四万十川物語 第一章

平成9年7月10日

メッセージ

高知県知事 橋本 大二郎

皆さん、こんにちは。高知県知事の橋本大二郎です。

このたび、日本の「新しいなか」、高知から全国の皆さまに四万十の風を感じていただきたく、FAX通信をスタートさせることといたしました。

四万十川は、全国の河川が変わりつつある中で、まだまだ豊かな自然が残る、多くの魅力をもった河川であり、この「宝」を、子どもたちに引き継いでいかなければならないとの決意を抱いております。

具体的には、平成7年4月から、県庁の中に『四万十川対策室』という組織を設置し、四万十川流域に関する総合対策を進めております。それから2年有余が経過した現在、四万十川が抱えている課題やその解決の為の新たな取り組みなどについて、全国に理解が広がりつつあります。

一方、全国の方々からは、「四万十川には行きたいけれど、どこに行けばいいかわからない」といった声や、資料提供などの問い合わせがよく寄せられます。これまでは、情報が観光に偏っていたことや、窓口がなかったことも大きな原因であると考え、四万十川流域の人々、自然、生活や取り組みなどを高知県から紹介していきたいと考えました。

内容にストーリー性をもたせたいことから名称を「四万十川物語」とし、当面はFAXを活用することとしました。

これから始まる物語をご覧いただき、ご意見やご要望をお寄せいただくとともに、皆様からの情報提供もいただければと考えています。

これからも、高知県を、四万十川を、よろしくお願いいたします。

一口メモ

『四万十川対策室とは?』

- 発足は? 平成7年4月1日
- なぜ、特定の川の名前をつけた部署ができたのか?

- ①全国的に高い評価を受けている四万十川が大きく変わりつつあったこと
 - ②浄化対策を進める一方で、道路整備等により自然環境が失われつつあるなど、総合対策が行われていなかったこと
 - ③「流域」を対象とした総合対策がなされていなかったこと
- などから、清流四万十川を後世に伝えていくための総合対策を進める横断的な組織として発足

- 何をしてきたのか?

「清流四万十川総合プラン21」策定
「四万十川フォーラム21」開催等

- これからどうするのか?

清流の森づくり・四万十川利用ルールの策定・沈下橋保存方針の策定等、プランの方向に沿った施策や事業の実現を図っていきます。

※ 四万十川に関する総合窓口
として、お使い下さい。



四万十ウィーク(7月22日~28日)の催し

①第7回四万十あつたがサイクリング

【24~26日:源流(東津野村)~最下流(中村市)】
196kmまるごと体験!人と自然と清流の夏

②僕の声・私の声・お聞きします

【25~26日:窪川町、中村市、東津野村】
フレッシュな目で見て感じたこと
...お聞きします!

③四万十源流点の森づくり

【26日(土):東津野村】
山と川と海のつながりをみんなで考えよう
(植樹と間伐体験)
...「森は海の恋人」の四万十版...

④全国トロッコ列車サミット

【27日(日):西土佐村】

パネルディスカッション

「自然を守る旅人」

美しい自然があるから、
トロッコ列車の旅が楽しい

⑤四万十川クリーン大作戦

【27日(日):流域一帯】

流域内外の人々が心を一つに
清流保全

四万十川物語—第二章—
【平成9年7月25日】



《メッセージ》

THE RIVER SHIMANT

今日は『四万十川の日』（メモ）です。

四万十川物語も特集号を組みました。

私～四万十川～も、1983年（昭和58年）にNHK特集「土佐・四万十川」で“日本最後の清流”と全国に紹介されてから、はや14年が経とうとしています。お陰様で、マスコミや口コミで全国に広がり、今や「最後の清流」は私の代名詞にもなっています。大変有り難いことです。

ただ、最近「最後の清流」が一人歩きしているような気がしてなりません。私を見に来てくださる方の多くは、私の顔（水面、水質）だけをみて、「綺麗だ」とか、「大したことないや」と言って帰っていきます。しかも、私に近づくことなく（水面まで視線をおろさずに）、ある人は車で走りながら、ある人は橋の上から見て！ 私には顔だけでなく服（川から連続した周囲の山々や白い砂州）を着た身体や手足（沈下橋など）もあり、顔だけの美人ではないと思っています。

また、洪水時には泥服を着た姿になります。

更に、忘れてならないのは、地域には明るく心の優しい方々が10万人以上も生活していることです。人々が生活し、なおかつ私との結びつきが強いのが大きな特長です。このような私を、ある人は「人々の息づかいが聞こえる川」と言い、ある人は「本物の川の匂いがする」と言ってくださいました。今の私は、この言葉が大好きです。

これからも、「日本最後の清流」の名に負けない魅力づくりに努力いたしますが、「清らかな流れ」だけなら人の住まない溪流など、全国どこにでも存在します。私は、清流も魚も人も全てが調和した自然の姿を、子供達に伝えたいと思います。

NHK特集の副題が、～清流と魚と人～となっていたことを想いつつ……。

《四万十川情報》

《～一口メモ～【四万十川の日】》

現在、皆さんに親しまれている「四万十川」の名前は、昭和39年の河川法制定時、正式には「渡川」でした。

しかし、全国的には通称である「四万十川」の方が浸透していったことから、「四万十川」を正式名称にという動きが起こり、

平成6年7月25日に正式に渡川から四万十川へ名称変更がなされました。これを記念して、平成7年度に策定した「清流四万十川総合プラン21」において、毎年7月25日を流域の「四万十川の日」とし、全国の方々の目を四万十川に向けていただく日としました。

さらに、この日を含む1週間（7月22日～28日）を「四万十ウィーク」と定め、四万十川クリーン大作戦など、県内外への情報発信を集中的に行います。

カヌー・マラソン大会

（8月10日）

四万十川でカヌーによるマラソン大会を開催！

【参加申し込み先】

中村市商工観光課
(TEL 0880-34-1111)

7月31日まで

四万十フレンドシップ倶楽部 会員 大募集中!!

四万十川への思い入れと支援をくださる
全国の個人・法人の方！（会費：無料）

問合せ先：四万十川対策室

☆四万十川の日・四万十ウィーク 関連イベント☆

◎源流点の森づくり(26日)：流域内外から約100名が植樹に参加し、川の源である森林を守り、育てます。

◎第7回四万十川クリーン大作戦(27日)：流域8市町村が心を一つに斉清掃に取り組みます(約1万人の参加)。

◎全国トロッコ列車サミット(27日)：「自然を守る旅人」をテーマとしたパネルディスカッションなど。

メッセージ

四万十川があった土佐

四万十川カメラクラブ会長
河川環境保全モニター
西内 燦 夫

23才のティムはTVカメラマン

16才のデイビットは高校生。

ふたりとも、カヌーは少し経験があるが、日本は初めて、四万十川も勿論初めて、と言う米国人である。
7月20日。雲ひとつない猛暑。この二人を連れて川下りをした。

私自身は通じるんだ、と一方的に信じている英語で、一方的に注意事項を言い放ち、
訳のわからん質問は一切無視しての出発だった。

出発間もなくは、真直ぐ進まなかったデイビットも、私のアドバイスが効いてかすぐに上達した。

「マッスグイク、ヒップ、ツイスト」

「スパゲティ、うどん、コシ ショウブ」

カヌーというのは、国籍、人種にかかわらず、指導さえ良ければ、年令が若いほど速く上達することが、
再確認されたまではいいが、デイビットの苦勞に対しての、ねぎらいの心を込めた、
私の「褒め言葉」が通じなかったのは、日米友好のためにも、残念に思えた。

しかし、、、「褒め言葉」が通じないってことは、「アドバイス」も、、、か？

さて、四万十川名物の、沈下橋に通じかかったところ、地元高校生の一団が、
橋の上から飛び込みをしている最中だった。いたずら小僧のデイビットに

「Try it there ?#」

「YAHOO,,,,,,,,,,,,」

10名近くの若者が、「インターナショナル！ インターナショナル！」「ツギヤザー！ ツギヤザー！」
訳の解からない言葉を発しながら、橋の上から飛び降りる水音は、中村市三里の谷間に大きく響いた。

地元民の私は、遠来の観光客を乗せた屋形船の行き来する場所なので、

四万十川の持つべき「情緒」や「イメージ」を心配したが、、、、、、

この騒ぎには、周囲のキャンパー、アマチュアカメラマン、屋形船の観光客、そして、
吟行中の俳句会の一行までもが拍手喝采をしていた。

ここで二つ学んだ。

観光は、その地方の歴史文化に触れ学ぶ姿勢も大事だが、まず「楽しくなければ、、」

私の英語力より、若者同士の握手の方が、心が通じている。

まあ、とにかくにも、カヌーによる川下りを二人は大いに楽しんだはずだ。ここは名高い四万十川だ。

「カヌー」の方が「飛び込み」なんかよりも、上品で、川の優雅さにマッチしている、、、、

今回の旅行の最高は「カヌー」だったと、日記に書くだろう、、、、と予測した。

そして、帰りついた二人からの感謝の言葉、、、、

「KAYAKKING オモシロイ」、、、フムフム、日本語少しは話せるな、、、、

「JUMPING サイコー」、、、ヨヨヨ、、、、

「最後の一言、余分だろうが、、、、」

若者の心を理解できない地元民がここに居る。

一口メモ

～四万十川流域住民ネットワーク～

メッセージを寄せてくださった西内さんは、流域で活発に活動している「四万十川僻村塾」の運営委員長であり、同塾らが
発起人となってH9年2月に結成された流域住民ネットワーク
の代表世話人でもあります。

構成団体数：22（増加中）

目的・活動：個々の団体や個人の活動を母体にしなが、住民
自らが主体となり、（愛媛県側まで含めた）流域
での有機的なつながりを持った住民活動の展開。

窓口FAX：0880-34-1967

～四万十川情報～

四万十フレンドシップ倶楽部

個人・法人会員 大募集中！

（詳しくは四万十川対策室まで）

※お願い～マナーを守って～

打ち上げ花火など音の出る花火は地元住民の睡眠の妨げになっています。キャンパーにとっては一夜のことでも、住民にとっては毎日のこと。

高知県では、本年度、「四万十川の利用ルールづくり」を行うこととしています。

メッセージ

四万十川のためいき・・・

四万十川村策室
(市原利行)

四万十川は人を呼び、人をひきつける。

え！と思われる人も来てくれる。勿論、マスコミの方も、若者も、家族連れも、海外の方も・・・

今年の漫画甲子園で優勝した沖縄県の高校生は、『沈下橋(※)』から飛び込み遊んだとか。

四万十川は来る人誰も拒まない。しかし・・・。

とある夏のキャンプ場。愛媛県の若者グループが河原に車で乗り込むやバーベキューの準備。スイカは四万十川へ。2時間後、彼らは平然と立ち去った。その跡は・・・アアー！！

スイカの皮、残飯、ビニール袋、真っ黒になった焚き火の跡etc.

四万十川の悲しそうな顔。見かねた人が全て片づけてくれたが、毎年どの河原でも繰り返される、**四万十夏の風物詩**。

早朝。霧が立ちこめる川面にコイが大きくジャンプした。又コイよ。四万十川は人を疑うことを知らない。

四万十川は人を呼び、人を引きつける。来る人誰も拒まない。しかし・・・。

そろそろ考え直す時期ではないか。自然を守る旅人はJR四国のコピー。まさに、四万十川を愛し、四万十川を守り、地域の人達と交流できる人だけが、訪れる資格があるのだ。

私たちは建設省、流域市町村、住民の方々と知恵を出し合い、四万十川ルールをつくることを決心した。来春には出来上がる。

来年の夏には、四万十川のためいきがよろこびに変わっていることを念じつつ・・・。

－この物語は、フィクションではありません。－

一口メモ

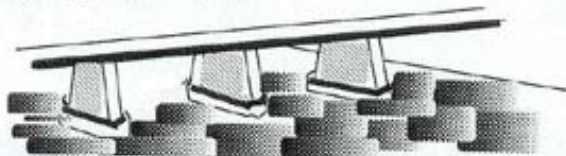
～沈下橋～

沈下橋とは、欄干がなく、大洪水の時に橋そのものが水中に沈むように造られた橋のことです。

現在、四万十川流域には、四万十川本川の22カ所と支川を併せ、全部で48カ所に現存しています。

沈下橋は自然の中に調和し、水面との距離が近いことから、人が川に親しみを感じ、中には自然の飛び込み台になっているところもあります。

県では、四万十川流域の基本方向を示した「清流四万十川総合プラン21」に沿って、生活文化的遺産として、沈下橋の保存方針を策定する作業を進めています。



～四万十情報～

四万十川源流点の村
東津野村を愉快地に体験しませんか！

いながづくり研究所

参加モニター大募集！

いろんな仕事を持った東津野村の若者が、新しいいながづくりを考える研究所。それが「いながづくり研究所」です。村外に住む参加モニターの方に、**年4回の愉快的イベントを通じて東津野村を体験**してもらい、意見を交換しながら、よりよいいながづくりにつなげていこうとするものです。

参加費無料・定員30名

申込締切：平成9年9月30日（火）

お問い合わせ・お申込みは

東津野村（企画財政課）TEL 0889-62-2311

テレビ高知 TEL 0888-80-1111

” 四万十ドラマ特集 ”

この人、この組織

四万十川をまん中に、人の豊かさを考える

「四万十ドラマ」 ～畦地 履正～



原稿料は「四万十川の天然アユ1kg 3年分」。
ユニークな企画で18人の著名な方々に執筆いただき、
このほど四万十ドラマ（以下「ドラマ」）から出版された「水」の本が好評だ。
ドラマの職員として日夜奮闘している畦地さんが語ってくれた3年間の歩みと
抱負は！！

— ドラマ創立から3年間の歩みはいかがでしたか。

あつという間の3年間でした。最初は何から手をつけてよいのか分からず試行錯誤の連続。
やっと「四万十川をまん中に、人の豊かさを考える」をテーマに、会員制度「RIVER」や「自然の学校」を起し、一部産直にも取り組みました。

会員の皆様とは、会員誌「RIVER」を通じてネットワークが広がり、交流が生まれました。
この交流の中から、四万十川の人や地域の魅力が分かり合え、四万十川のことをより深く知ってもらっています。会員の人は皆、四万十川のために一役買いたいと思っているのではないのでしょうか。

さらに、四万十産の槍を使って「四万十の槍風呂」を販売し、会社の景品に使っていただいています。ただ、未だ一人立ち出来ないのが残念です。

— これだけのことを実質一人でやられたんですか、ガンバっていますね。

いや、いくら気持ちはあっても、僕だけの動きではとても出来ません。地域の人をはじめ多くの人々の支援のおかげです。各方面の方からも支援・協力していただいています。

— これからは、どんな方向へもって行かれるのですか。

ドラマは株式会社ですから、運転資金を生まなければなりません。このため、こだわりをもった地場産品の通販を始めたいと考えています。さらに会員数を増やし、会員の方々には四万十川の景観や観光面だけでなく、地元の人々の生活も産物も、それを作っている人も知ってもらいたい。地元の方々にはもっとドラマの活動に企画段階から加わり、知恵を出してもらって一緒に考えていきたいし、四万十川の本当の豊かさを地元の人にも気づいて欲しい。

地元以外の人から意見もどんどん出してもらって、どうしたらいいか話し合える場もつくりたい。都市と田舎の人々が交流を通じて、四万十川を活かした地域の活性化を図ることが僕の最終の願いです。



— 口メモ —

「四万十ドラマ」 TEL 08802-8-5527
FAX 08802-8-4875

四万十川中下流域の3町村（西土佐村、十和村、大正町）でつくる第三セクター（H6、11月設立）

【活動内容】

- ①会員制度「RIVER」：会員数約1,500人
情報誌発行（年2回）
- ②「自然の学校」：川エビ漁や木材加工など多彩な内容の自然体験学校の開催
- ③地場産品の販売：高知県産品計画機構と共同で、流域の旬の味覚と観光をセットにした商品を売り出し中

～ 四 万 十 情 報 ～

< 秋冬の「自然の学校」(予定) >

- 魚つりの学校…臨時開講
- どんぐりを拾って育てる学校…11月9日
- お味噌つくりの学校…12月7日
- 春の七草つみの学校…1月11日
- お正月をお届けします…11/1～12/10受付
(ミニ門松と餅) 12/25～28発送

< 「水」の本 ～エッセー集～ >

桑井重里さんや筑紫哲也さんなど各界の著名人18人
それぞれの「水」に対する思いを綴ってもらいました。
ただいま販売中！ A4判変形 170ページオールカラー
売価2,200円（消費税含・送料別）

お問い合わせはいつでも四万十ドラマまで

<視点・論点>

落ちアユ考

～四万十川対策室～

四万十川の落ちアユ漁がまもなく解禁され、この日にあわせて県内外から多くの愛好者が下流の中村市周辺に訪れる。日の出とともに寒風の中で繰り広げられる情景は秋の風物詩ともいえ、写真家などからも注目されている。

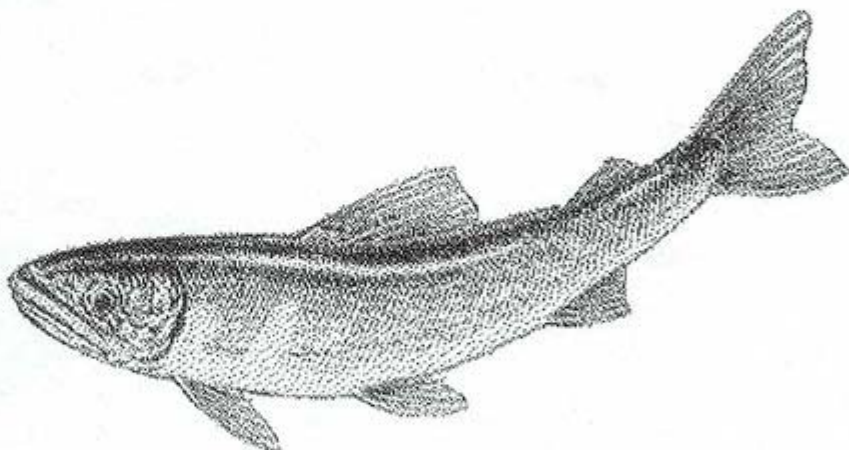
それにしても、この時期のアユをなぜ「落ちアユ」と呼ぶのだろうか。春から遡上を始め、お腹一杯に卵を抱えて下ってくるアユ。産卵後はそのまま力尽きるという。その顔は子孫を残した安心感からか、秋口までの生き活きとした清流の女王の姿は、どこにも見あたらない。人の人生を一年に凝縮したようでもある。そのままそっとしておいてやりたいとの気持ちがわくが、一年魚という悲しい運命をもっていることから、むしろ河川を汚してしまうこともあるだろうし、地域経済に大きく寄与していることを考える必要があるだろう。

それにしても、「落ちアユ」の名前は変えられないかと思う。「下リアユ」は平凡だし、「熟女アユ」は少し不まじめか?! 一年間洪水にも負けず遡上続けたアユ、地域経済に貢献してくれたアユに対して、感謝の気持ちのこもった呼び名を四万十川のアユだけでもつけてやりたい。

近年、この四万十川のアユの漁獲量が大きく減少しているとの指摘が多く寄せられる。乱獲や水質の悪化、山の変化など様々な原因が指摘されているが、その実態や原因が分からない。

高知県では、四万十川流域の羅針盤である「清流四万十川総合プラン21」

(※) の方向に沿って来年度から水産資源の総合的な実態調査を実施し、その要因を解析した上で、有効な対策をとることとしたい。



一口メモ

「清流四万十川総合プラン21」

高知県では、清流四万十川を流域住民はもちろん、県民・国民共有の財産として後世につないでいくことが、いま生きている私たちの責務であると考え、四万十川流域の保全と創造を基本に、清流四万十川と地域の振興が調和し共存する流域づくりを進めるため、その基本指針として「清流四万十川総合プラン21」を策定しました（平成8年3月）。

プランでは「循環」・「予防」・「調和」の基本理念に沿って、四万十川が抱えている多くの課題とその対策を始め、様々な事業を実施する上での配慮すべき事項や目標とする指標をできるかぎり網羅しており、この中で、アユをはじめとする天然魚の生息状況等の調査をもとに、その保護・増殖を進めることを明記しています。（詳細は別章で説明します）

～ 四万十情報 ～

落ちアユ漁解禁 【11月16日（日）】

日の出の煙火を合図に、四万十川最下流、中村市の赤鉄橋周辺の四万十川では、今年もたくさんの太公望とカメラマンでの賑わいが予想されます。

四万十川僻村塾 開催

四万十川流域住民ネットワークの中心団体のひとつである四万十川僻村塾が次のとおり開催されます。

【11月15日（土）18:30～】

於：中村市山路 アカメ館

<講師陣> 問合せ先：tel 0880-36-2334

塾長 高橋 治 作家
塾頭 月尾 嘉男 東京大学工学部教授
教授 新谷 暁生 カヌーイスト
教授 崎野 隆一郎

然別湖ネイチャーセンター代表

教授 高石 芳光 釧路川カヌークラブ会長
貞野 響子 女優

この人、この組織

～四万十川源流点の村から～

自然と生活の調和した村づくりを求めて

～カウベル会^(※)(高知県東津野村)～

会長：野瀬覚謹 事務局長：熊田光男

――「カウベル」という名前は大変可愛らしいですね。名前の由来と、どういうきっかけで「カウベル会」が発足されたのか教えてください。

もともとは、四万十川の自然を活かした村づくりを考える生涯学習研究大会に「近自然工法」第一人者の福留脩文先生(西日本科学技術研究所(高知市)代表取締役)に御講演いただいたことが始まりです。

講演内容に大きなショックを受け、福留先生が毎年行かれている先進地スイスへの研修に視察団を同行させていただきました。帰国後、研修成果を一過性のものとせず、残していこうという声が起こり、研修参加者でカウベル会を結成しました。スイスでの印象的な牧畜風景・牛の首に掛かっているベル(カウベル)にちなんで名付けたものです。

――具体的には、どんなことに取り組みましたか。

最初の取り組みは、会員の一人が、自社の資材置き場の隣を流れる四万十川支流の護岸工事に、村の承諾を得て「近自然工法」を取り入れました。これは私費で行いました。その後、県の事業でも会の意見を取り入れた近自然工法による工事を行っていただきました。特に、私たちの働きかけで四万十川第二の支流・北川川の落差工(長さ30m、幅3m、高さ6mもの大規模な施設)を改修し、全国で初めて魚が上れるような河川に戻すことが実現したのは大きな成果です。

――カウベル会は四万十川流域住民ネットワークにも参加されていますが、これからの抱負は?

福留先生の指導をいただきながら、勉強会を継続し、会員相互のつながりを保っていきたいと思っています。一人一人がそれぞれの集落の地域づくりを見直し、具体的な活動を起こしていくなかで、自然と生活の調和した村づくりにつなげていきたい。これからの村づくりは、住民の声を聞いて進めて欲しいし、住民団体も単に自然保護を訴えるのではなく、行政とともにどのようにしたらよいか話し合っていくことが重要だと思っています。

――源流点から流域へ、そして全国へ。今後の活躍を期待しています。



―「清流四万十川総合プラン21」表紙から―

一口メモ

カウベル会

平成3年度から5年間に渡り「ふるさと創生事業」の一環として行ってきた「スイス農村視察研修」の参加者で結成(平成5年)。全5回の視察を終え、現在会員数46名。職業は農業、建設業、森林組合、役場職員など多彩。近自然工法に関しては村内土木業者らのアドバイザー的存在になっている。

会員の視野も広がり、若ものから新しい村づくりの取り組みも生まれてきている。

【連絡先：東津野村役場 民生課】
TEL 0889-62-2311/FAX 0889-62-3519

～四万十情報～

第六章以降の期間(11月10日～12月9日)での高知県の主要な取り組み

- ①第2回沈下橋保存方針検討会(11/17)
- ②第1回流域圏学会(四万十学会)創設検討会(11/27)
流域圏をベースとした新たな学会の創設を検討。
- ③第2回四万十川利用ルール検討会(12/2)
- ④佐賀発電所水利権更新公開調査会(12/7)
四万十川からの放流先である河川での流量調査を一般に公開。
- ⑤第2回「自然遡上可能な魚道の設置・改良」検討会(12/8)

～子供たちへの贈り物：四万十川～

《四万十川対策室》

21世紀まで1000日を切る年となりました。皆様は、21世紀の扉をどこで開かれますか？高知の新しいながー四万十川流域で悠久の流れに身をまかせながら、静かに時を刻んでみませんか。

本年は四万十川にとっても新たなページを開く年です。NHK特集一土佐・四万十川ーで全国に紹介されて以来15年、一過性のブームに終わることなく、今なお全国的に高い評価を得ているのは、「日本最後の清流」に負うところ大ですが、清流や自然だけでは、これだけ長く人気が続いていないのではないのでしょうか。

流域には緑あり、魚あり、清流あり、沈下橋あり、そして素朴な人がいる。人々の生活が自然に溶け込み、自然が人々を包み込んでくれている地域。だからこそ、JRグループのフルムーンポスターの撮影場所にも選ばれたのでは？



【宝酒造（株）提供】

四万十川は索漠とした現世の一滴の清涼剤であり、流域は心のふるさととして、失われつつある「いなが」の風情を今なお残してくれております。

四万十川は先祖から預かった自然の宝物。子供たちへの自然の贈り物。

しかし、油断は禁物です。今春の明石大橋の開通や平成11年度の尾道・今治ルート完成に加え、高知・愛媛双方から流域に高速道路が伸びてきております。今後、訪問者は増加の一途をたどり、反比例するかのよう、清流も人々の素朴さも失われる恐れがあります。このため、予防的視点から2000年度を目標に、保全のための仕組みづくりを進めております。

清流通信「四万十川物語」は、本年も流域の自然、生き物、人、暮らし情報などをタイムリーに紹介し、新しいページを刻んでまいります。

— 四万十情報 —

四万十フrendシップ倶楽部

昨年7月の募集開始以降、四万十川に思い入れをもってくださっている、500人以上の個人や法人の方々の入会があり、四万十川への熱い思いや今後の取り組みに対する意見・提言などが多数寄せられています。
(継続して会員募集中)

【今後の活動予定】

- 会報誌（H9年度分）の発行（1月末）
会員の皆さん一人一人が、何ができるかを一緒に考えていく機会にしたいと考えています。
- 会員交流会の開催（2～3月：於 愛知・東京）
会員相互の交流の場を設けます。

四万十川清流の森づくりキャンペーン

山・川・海のつながりを大切にし、清流保全是山づくりからと、昨年度、源流点の東津野村からスタート。今年度は中流域の窪川町で実施します。

日時：平成10年3月1日（日）

場所：高知県高岡郡窪川町平串

参加者：流域内外の親子

森林や漁業関係者など 約600人

内容：植樹体験—広葉樹 約4000本

講演会・クイズ大会等（予定）

主催：四万十川総合保全機構（流域8市町村）

※問い合わせ先：四万十川対策室

この人、この組織

かえるんど・で・かえるんどー

～ヤング・スマイル・クラブ～

会 長：窪田 博子
事務局：古谷 幹夫

★クラブの名前の由来は？

名付け親は若い会員で、苦しいときも、悲しいときも、年齢を重ねても、「ヤング・スマイル精神」を忘れないという意味で名付けました。農業経営を男性だけに任せるのではなく、女性の立場から農業の改善・発展を図り、地域社会に貢献できたらとの思いを持っています。

★生ゴミ分解処理材「かえるんど」は、名前もユニークですね。

「かえるんど」は 農業の原点である「土づくり」の学習の中で生まれたもので、「土にかえる」という意味です。商品化後、県内外のJA婦人部や市民団体などから講師に招かれたり、視察を受け入れる中で、多くの交流が生まれ、農業問題だけでなく、四万十川の問題にも関心が深くなってきました。

また、堆肥をつくるだけでなく、「生ゴミの堆肥化リサイクル運動」を進めるためにも、役場や商工会、森林組合などに呼びかけ、「生ゴミ堆肥を利用した花いっぱい運動」に取り組んでいます。



★昨年2月に発足した「四万十川流域住民ネットワーク」にも加入するなど、活動の場が広がっていますが、これからの抱負は？

会員は年齢層も出身も異なりますが、常に活動は地元に根ざしたことをやろうと誓っています。今後は、ヨーロッパの農村生活や環境問題を学ぶ研修にも行こうと話合っています。

★農業も環境問題も、女性が鍵を握っています。四万十川上流の町から流域へ、全国への発信を期待しています。

ー ロ ヂ ム ー

ヤング・スマイル・クラブ

窪川町の農業女性グループ。平成元年12月発足。会員は現在16名。

堆肥の学習の中で「生ゴミのリサイクル」についての話を聞き流さずに、商品化の取り組みに育てたのは、女性ならではの目の付けどころ。

生ゴミ分解（堆肥化）処理材「かえるんど」はJA四万十堆肥センターで商品化され、発売中。

クラブ事務局（JA四万十 農産課）
TEL：08802-2-3586
FAX：08802-2-0919

ー 四万十情報 ー

四万十川クリーン大作戦（窪川町）

昨年9月に来襲した台風は、30年振りの洪水をもたらし、兩岸の木々にはいたるところビニールの花。

四万十川上流の窪川町では、2月1日（日）早朝から、町内全集落から町民が出て、これらのゴミを取り除きました。手製の道具や川に舟を浮かべての3時間余りの汗の結晶…。地元はがんばってます！

四万十川流域では、毎年7月第4日曜日に1万人規模の「四万十川クリーン大作戦」を計画しています。全国の皆様の御参加をお待ちしています。



～三歳となる四万十川対策室～

「高知県四万十川対策室」は、まもなく三歳になります。

『日本最後の清流と称される四万十川は、今や国民的資源として本県が後世に伝えるべき大きな責任を負っている。流域の・・・(中略)・・・安全・快適な地域住民の生活と自然保全の調和がとれた総合対策を推進できる体制を整備し、今後のモデル行政とすべきものである。』

(高知県行政改革検討委員会から知事への提言：平成6年9月)

に沿って設置されたものです。

平成7年4月の設置以降、四万十川の総合窓口はもとより、「循環・予防・調和」を基本理念とし、山・川・海のつながりを重視した流域総合計画『清流四万十川総合プラン21』を策定するとともに、プランの方向に沿って様々な施策や事業を進めております。

●これまでの取り組み(主なもの)

▼自然循環型水処理技術・四万十川方式の実証開発

▼木の香る道づくり事業の推進

※間伐材やポット苗による擁壁の緑化と

中山間振興

▼近自然工法による河川環境の復元

▼清流の森づくりキャンペーンの実施

▼四万十川流域住民ネットワークの発足

▼四万十川の清流を守ろうキャンペーン

※宝酒造(株)と高知県の官民共同キャンペーン

▼沈下橋保存方針、四万十川ルール(策定中)

▼四万十フレンドシップ倶楽部の結成、四万十大使の委嘱等情報発信



【宝酒造(株)提供】

●これからの取り組み(主なもの：予定)

2000年度までに、保全のための仕組みづくりを終了させる方向で取り組みます。

▼流域統一条例の制定等保全システムの確立

▼水力発電所の水利権更新問題への対応

▼四万十川ワンランクアップ事業の推進

※四万十川の水質目標を最上位へ変更

▼公益法人の創設

三歳となる平成10年度はプランの3年目となり、今後の四万十川及び流域の方向を決定づける非常に重要な年です。設立時の初心に帰り、徐々にではありますが着実な歩みを進めますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

※次章(4月10日発信予定)では『四万十大使』のご紹介を予定しています。

自然に学んだ新技術

『四万十川方式』

●四万十川方式とは？

四万十川方式は、水田の水浄化機能を手本に、自然が本来持っている物質循環の自浄機能を活かした新しい水処理システムです。

この方式は化学薬品を使用せず、木炭や枯れ木、石などの自然の素材に若干の加工を施したものを適切に組み合わせ、微生物の力で浄化する方法で、有機性の汚れはもとより、通常の方法では除去困難な窒素、リン、LAS（陰イオン界面活性剤）も削減できます。また、従来の方式に比べて保守管理面でも優れた特徴を持っています。

●どのような方法で開発されたのですか？

東京大学大学院の松本聡教授を会長とする産・学・官組織で構成する「高知県自然循環方式水処理技術研究会」で開発・実証したものです。

現在、生活排水の他に畜産排水を対象とした研究を進めています。

●どれだけの実績がありますか？

現在、四万十川方式水処理施設は、流域を始め高知県内に16基、県外に8基、合計24基が設置されています。用途は都市下水路などの汚濁水処理の他、大型の合併処理浄化槽の3次処理（高度処理）施設として設置され、処理水が再利用されているものもあります。



(平成9年度末実績)

【問合せ先】高知県四万十川対策室

次章：四万十大使「儀 万智」さんを予定

俵万智さんが四万十大使に就任！

歌人でテレビや雑誌等で御活躍の「俵万智」さんに、四万十大使にご就任いただきました。

四万十大使は、全国で御活躍の著名な方々の中で、高知県民・国民共有の財産「四万十川」への支援を呼びかけてくださる方に、高知県知事が委嘱させていただくものです。謝礼は心ばかりの四万十川の天然アユです。

俵万智さんは、7～8年前に四万十川を訪れ、
「四万十に光の粒をまきながら 川面をなでる風の手のひら」
の短歌を詠まれており、この歌がきっかけとなって実現したものです。

俵万智さんには、さる4月7日に橋本高知県知事から正式に委嘱状と大使の名刺をお渡しして、ご支援をお願いしました。

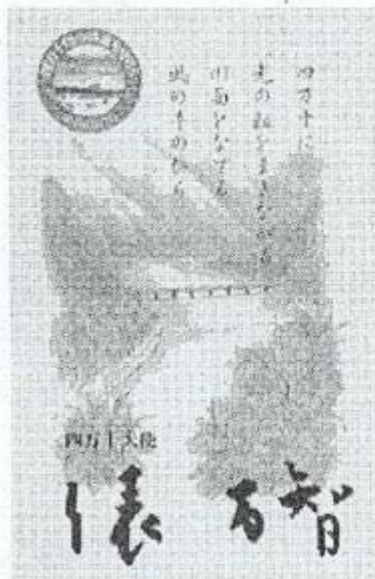
早速、俵万智さんのホームページ
「俵万智のチョコレートBOX」で、全国への支援を呼びかけていただいております。

ホームページアドレス

<http://www.tokyoweb.or.jp/gtp/twr>



●四万十大使委嘱式での俵万智さんと橋本知事



●四万十大使俵万智さんの名刺

高知県では、ややくたびれた、風邪ぎみの四万十川を健康な体に戻すとともに、一層の魅力アップにむけて、四万十川方式による清流保全、四万十川ルールや、沈下橋保存方針の策定、木の香る道づくり事業による景観の保全など、四万十発の様々な試みを行っております。

全国の皆様のご協力をお願いいたします。

Topics

5月10日からインターネット上に、高知県（四万十川対策室）のオフィシャル・ホームページ「四万十川」を開設しました。四万十川に関する情報や四万十発の施策紹介を行っております。皆様方からのご意見・ご提言をいただくコーナーも設けてありますので、どしどしアクセスしてください。

ホームページアドレスは、

<http://www.pref.kochi.jp/~shimanto/>

◎次章(6月10日発信)は、「木の香る道づくり事業」についてご紹介します。

四万十発の新技术

～「木の香る道づくり事業」～



●植栽後、半年が経過した状態

(窪川町一斗俵地区 H7.8 撮影)

Q. 四万十川沿いをドライブしていると、山を切り崩した後に木の苗を植えてあるのを見かけました。あれは何という工事ですか。

《しまんと君》

ほとんどの人が川を見ながら走るの、気がつかない人もいますよ。これが四万十発の新技术『木の香る道づくり事業』です。

Q. 川側を埋めて広げれば安くて早いのに、なぜこんな工事をするんですか。

《しまんと君》

平成4年頃までは、自然の川岸をコンクリート壁でおおう道路改良を進めた結果、自然豊かな四万十川が、都市のような感動のない川になろうとしていました。また、川は蛇行を繰り返しながら水をきれいにしたり、生物のすみかになっていますが、これも失われつつありました。

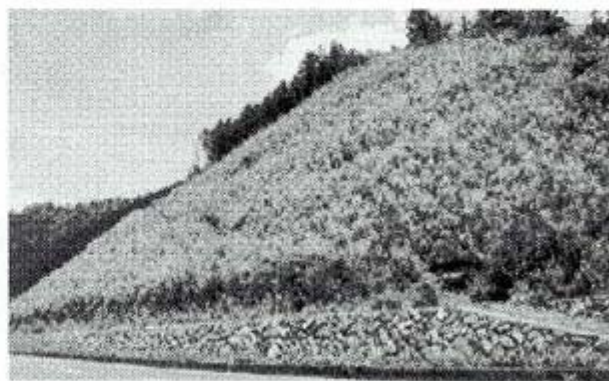
平成5年頃から四万十川の自然川岸を守るため、道路を山側へ広げるようにしましたが、削った擁壁を従来のコンクリート吹き付け工法を行うと自然景観が台無しとなるため、この技術が新たに考案されたのです。

Q. 四万十川での実績により、補助事業に認められたそうですね。

《しまんと君》

この技術は高知県(土木部)職員のアイデアで、平成5年から高知県単独で取り組んだ実績を元に国に提案し、平成7年から認められました。

単なる自然景観の保全(緑化)ではなく、間伐材やポット苗を使うことによって中山間地域の収入増となるところに大きな意義があります。



●順調に自然林へと復元しています。(H10.4 撮影)

Q. 最近は森林組合の方が土木事務所を訪れるとも聞きますが…。

《しまんと君》

高知県は全国一の森林県です。これからの土木は、いわゆる「土」と「木」の本来の土木に還ることが重要ではないでしょうか。

四万十発の新しい技術が、全国へ広がることは本当にうれしいことです。

Topics

◎第8回四万十あつたがサイクリング

7/24～7/26 (応募締切6/22)

源流の東津野村から最下流の中村市まで、自転車で走破します。

お問い合わせは、東津野村教育委員会 電話(0889)-62-2258 FAX(0889)-62-3519

次章(7月10日発信)は、「四万十川ルール」についてご紹介します。

「四万十川」の恵みに感謝して ～四万十ウィーク～

流域住民や市町村、高知県が力を合わせて働きかけ、「渡川（わたりがわ）」から「四万十川」へと正式に名称変更したのは、平成6年7月25日。河川名称の変更は、河川法施行以来四万十川が初めてです。

これを記念して、毎年7月25日を「四万十川の日」と定め、この日を含む一週間（7月22日～28日）を「四万十ウィーク」と決めました。

四万十川ウィーク中には、四万十川の魅力に関する情報発信をはじめ、清流保全への支援を呼びかけ等を行っています。



(中村市 三里沈下橋)

特に四万十ウィーク中（毎年第4日曜日）に開催される「四万十川クリーン大作戦」は、今年で8回目を迎えます。これは、四万十川流域8市町村が中心となって、一斉に四万十川およびその周辺をクリーンアップするものです。参加者は、流域住民はもとより、官民、キャンプなどを楽しんでいる観光客にもご協力を頂いております。

四万十川の豊かな恵みを享受するだけでなく、同時に川への感謝の気持ちを表していただければ幸いです。

第8回 四万十川クリーン大作戦 ～流域一斉清掃～

日時 平成10年7月26日（日） 午前8時～10時頃

（市町村によって実施時間が異なりますので、ご注意ください。）

場所 四万十川流域8市町村内（東津野村、大野見村、梶原町、窪川町、大正町、十和村、西土佐村、中村市）

*小雨決行

◎お問い合わせは

窪川町役場企画課(四万十川総合保全機構事務局) TEL(08802)-2-3124

四万十川対策室 TEL(0888)-34-9795



伝言板

その巻 四万十フレンドシップ倶楽部 会員募集

現在、750名余りの方が会員としてご協力いただいております。四万十川への熱い思い入れとご支援をくださる全国の個人、法人の方々！ご入会をお待ちしております。

その巻 ホームページ「四万十川」開設 (<http://www.pref.kochi.jp/~shimanto/>)

5/10からの開設以来、すでに1,700名以上のアクセスをいただきました。四万十川発の施策紹介ほか、みなさまからのご意見、ご提言をいただく「あなたと私の情報交換」コーナーも設けていますので、引き続きのアクセスをどうぞよろしくお願いします。

その巻 佐藤旭写真展「生命の川—四万十川紀行」開催 (主催：毎日新聞社)

平成10年7月10日(金)～22日(水)

京阪ギャラリー・オブ・アーツ・アンド・サイエンス(京阪百貨店守口店7階)

入場料 一般：400円、大・高・中生：200円

足掛け3年通い、美しい自然を次の世代へ引き継ぎたいとの思いで撮影した「清流の今」約70点が展示される予定です。

◎写真集「生命の川—四万十川紀行」(淡交社刊) 好評発売中！！

高知県知事 橋本大二郎氏のメッセージも掲載されています。

次章は、「四万十川の日」特別号(7/25発信予定)です。お楽しみに。

四万十大使 俵万智さん「四万十川紀行」

7月25日は「四万十川の日」。全国の方々に四万十川をもっともっと知っていただき、支援の輪が広がることを期待して設定した日です。その一環として、今日の高知新聞には、宝酒造(株)と高知県、四万十川総合保全機構が協力して「四万十川の清流を守ろう」キャンペーン広告を掲載しています。

俵万智さんが四万十大使として初めて、四万十川（高知県）を訪れてくださいました。あいにくの梅雨の真ただ中。沈下橋の沈む寸前を目撃したものの、清流四万十川の姿は全く見ることはできませんでした。この時のエピソードの数々は、8月4日発売分から5週にわたって連載される「ちいさい旅 みつけた」（週刊朝日）で、俵さん本人が語っていただけるのではないかと思います。

それにしても、俵さんは本当に飾らない方。このことは、テレビや雑誌でも感じていましたが、直接ご案内して改めて実感しました。



●西土佐村口屋内沈下橋の上で

四万十川の日、四万十大使・俵万智さんのことを報告。何よりの四万十川へのプレゼントです。

伝言板

○四万十川クリーン大作戦 ～流域一斉清掃～

日時：7月26日(日) 午前8時～10時頃(市町村によって実施時間が異なります。)

場所：四万十川流域8市町村内(東津野村、大野見村、梶原町、窪川町、大正町、十和村、西土佐村、中村市)

*小雨決行

四万十川は、ひとりひとりの財産です。流域の心をひとつにして「日本最後の清流」を守りましょう。

○四万十川環境保全キャンペーン

土佐くろしお鉄道では、「環境にやさしい土佐くろしお鉄道の日」として、土・日・祝日のワンマン列車運賃が半額になるキャンペーンを実施しています。(子供料金はさらに半額。)期間は今年7/1～12/31で、土佐くろしお鉄道全線(窪川～中村～宿毛間)が割引の対象となります。(土佐くろしお鉄道中村駅 TEL 0880-35-4961)

次章(8月10日発信)は、「四万十りんりんサイクル」についてご紹介します。

「四万十りんりんサイクル」スタート!

ー全国初の沈下橋コースー

四万十の爽やかな風を肌で感じながら、のんびりと自転車で走ってみませんか!!

四万十川沿線には、豊かな自然がまだまだ残されており、車では一瞬で通り過ぎてしまう風景も、ゆっくりと眺めてみれば新しい感動に出会えます。西土佐村～中村市の約40kmの区間に、4ヶ所のターミナルを設置し、各ターミナルで自由に自転車の乗り降りができるレンタサイクル事業を実施します。自転車は新型のマウンテンバイク100台を各ターミナルに振り分け、事前予約で貸出を行います。(台数に余裕がある場合は、当日でも貸出OK!) 鉄道で来られた方の足として、又、車でこられた方は交替で外の空気に触れてみてください。このコースは、洪水時に水中に沈む沈下橋が6ヶ所あり、沈下橋を時々渡りながら走れば、忘れられない思い出!

- 実施期間 (試行)
平成10年 9月10日(木)～11月30日(月)
(ただし10月17、18日は休業)
- ターミナル (自由に乗り降り可能)
 - ・JR江川崎駅
 - ・西土佐村観光協会カヌー館
 - ・西土佐村口屋内「味の館」(註)
 - ・土佐くろしお鉄道中村駅
- 料金 (1台につき)
 - ・半日 (4時間未満) 500円
 - ・1日 (4時間以上) 900円
 - ・1泊2日 1,600円
 - ・2泊3日 2,400円
 - (以降1日毎に500円追加)
- お申し込み・予約取扱い所
 - ・西土佐村観光協会カヌー館
TEL 0880-52-2121
- お問い合わせ先
 - ・西土佐村役場産業課 TEL 0880-52-1111
 - ・高知県四万十川対策室 TEL 0888-23-9795
 - ・高知県観光振興課 TEL 0888-23-9607



(四万十りんりんサイクル ルート図)

◎ターミナル間の距離と所要時間 (所要時間は8km/hの場合)

江川崎駅	2km	カヌー館	15km	口屋内(味の館)	28km	中村駅
	15分		1.5時間		3.5時間	

(註) 西土佐村口屋内「味の館」

西土佐村口屋内地区の女性グループ「小町会」が、口屋内沈下橋近くの国道441号線沿いで経営している物産直販施設です。無添加の手作り味噌「小町味噌」や田舎寿司、総菜などを販売しています。江川崎と中村市を結ぶ中継スポットとして、多くの観光客の方が訪れています。

— Topics —

「ここに生まれ 海へと育ちゆく水の
四万十川という名の旅路」

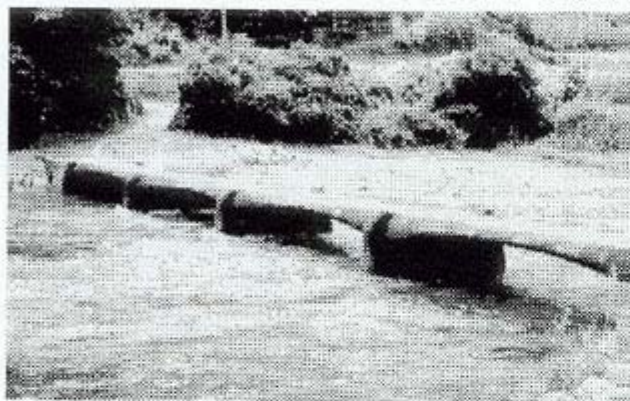
四万十川大使、俵万智さんが「ちいさい旅
み一つけた」(週刊朝日8/14号:発売中)で源
流点で詠んでいただいた歌です。

次章(9月10日発信)は、「沈下橋保存方針」の予定です。

『四万十川沈下橋保存方針』

「沈下橋（ちんかばし）」。「文字通り「（水の）下に沈む橋」。欄干が無く、川面に近い場所に建設されています。この沈下橋が四万十川及び支流を含めて50カ所以上残っており、古いものとしては、昭和10年建設のものもあります。

この中から管理者が明らかな47橋を対象として、高知県と四万十川流域8市町村長で構成する「四万十川総合保全機構」が一体となって、原則保存していく方針を決定しました。この方針は、「清流四万十川総合プラン21」(H8.3.高知県策定)で生活文化遺産として位置づけ、保存する方向に沿ったものです。



●大正町 向山橋

今後は、流域住民の生活や文化、景観、親水性、観光等の視点によって、第1種と第2種沈下橋に区分し、特に第1種沈下橋については、原型復旧し重点的な維持管理と復元を行っていきます。

とは言っても、現在、国にも県にも保存のための財政支援制度はなく、今後この方針に基づき、県庁内での検討はもとより、国に対しても新たな制度を要望していくこととしています。

俵万智さん危機一髪！！

沈下橋 沈下してゆくさまを見つ

今夜は川に抱かれて眠れ

四万十大使、俵万智さんが「ちいさい旅 みつけた」（週刊朝日9/18号：発売中）で詠まれた歌です。俵さんが取材で四万十川を訪れた時は、連日の大雨で、文字通り暴れ川に変身。沈下橋がみるみるうちに水没していきました。危うく濁流に飲まれかけようとしていた俵さんの驚きが、臨場感を感じさせながらご紹介されています。

四万十情報

●「四万十りんりんサイクル」スタート！

前章でお知らせしたとおり、本日9/10よりスタートします。ぜひ利用してみてください。「サイクルロードマップ」ができていますので、四万十川対策室まで連絡いただければお送りします。

なお、予約は西土佐村観光協会力又一館(0880-52-2121)で承っています。

次章（10月10日発信）は、「四万十川の価値」を予定。

四万十川の値段は？ 全国的評価は？

今日は「10.10.10」。四万「十」川が30倍魅力アップする日。
それでは普段の四万十川の値段はいくらでしょう。答えは？

「最大約6150億円、最小約1400億円」。この額はすごい？いや思ったより低い？
これは平成8年3月に高知県政策総合研究所がとりまとめたものですが、試算の前提が「清流」のみであり、四万十川の魅力である「人・自然」が加味されれば数倍の値段になるのでは？

一方、四万十川の全国的評価はどのくらいでしょう？次のアンケートを見てください。

1「日本で最も自然が残っていると思う川」

(H10.7: 鯛中塾店(ミツカン))

第①位 四万十川 (約49%)

第②位 長良川 (約6%)

2「読者が行ってみたい日本の川」(H9.6:「7外7」)

第①位 四万十川 (約47%)

第②位 長良川 (約8%)

3「行ってみたい四国の観光地」(H10.4: 四国通産局)

第①位 四万十川 (約60%)

第②位 足摺岬 (約30%)

4「私の好きな世界の川」

(H5.2: シチズン時計)

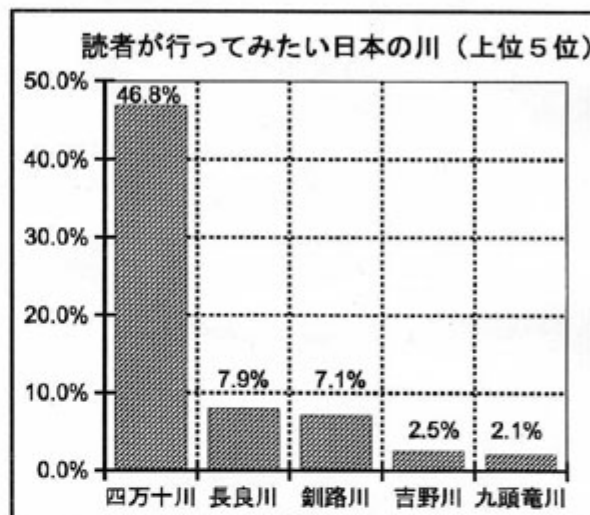
四万十川が唯一ベスト入り(総合9位)

日本では長良川が2位(総合13位)

5「四万十川流域訪問者」(H9.5: 高知県四万十川対策室)

高知県外 (約84%)

①位は関西地方(約26%)



出典：「7外7」97年6月号(橋山と溪谷社)

1～3は、時期も質問内容も異なっているにも係わらず、四万十川が全てダントツのトップを占めており、又、4では日本の約120の大河川中トップであり、5では高知県民より全国の方に高い評価を受けていることが分かります。

この結果には、多分に未知へのあこがれとイメージ的な面もありますが、四万十川が全国的に高い評価を受けている根拠になると思います。

「清流があって人がいて、自然が残る四万十川(流域)」。「清流・人・自然」、このいずれかが一つが欠けても、四万十川(流域)の価値は大きく減少するでしょう。

高知県民・国民共有の財産・四万十川。いつまでも、人と自然が調和した「新しいなが」が引き継がれていくことを願いつつ、...。平成10年10月10日のメッセージ！

四万十情報

①大好評 四万十りんりんサイクル(～11月30日まで営業)

西土佐村～中村市間の4カ所のターミナルで自由に乗り降りができます。自転車は最新型マウンテンバイク！サイクリングロードは、勾配のほとんどない自然の道！ぜひ走ってみてください。ご予約、お申し込みは、西土佐村観光協会(0880)52-2121まで。(サイクリングロードマップをお送りしますので、四万十川対策室までご連絡ください。)

②四万十川源流点の森づくり

平成10年10月25日(日)に、東津野村の四万十川源流点「郷土の森」で、植樹や間伐、樹種の名札付けを行う「四万十川源流点の森づくり」を開催します。対象者は小学生以上で、参加費は無料です。ご予約は、東津野村役場企画財政課(0889)62-2311まで。(高知市から無料バスが出ます。)

次章(11月10日発信)は、「四万十川源流点の森づくり」を予定。

「四万十りんりんサイクル」大好評！

～ あなたも一度走ってみませんか ～

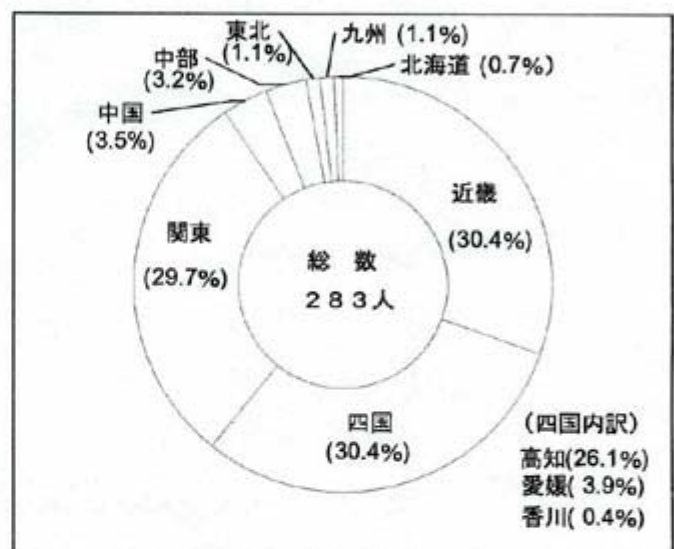
西土佐村～中村市間45kmの行程に4ヶ所のターミナルを設け、どのターミナルからでも自由に自転車の乗り降りができる…。従来のレンタサイクルにはなかった「四万十りんりんサイクル」が9月10日からスタートし、すでに1ヶ月経ちました。おかげさまで大好評で、全国各地から利用していただいています。誠にありがとうございます。この事業は、当面11月30日まで実施しますが、現在(10月15日)までの利用状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1. 利用者数

10月15日までの利用者総数は、283人です。但し、JR独自で取り扱った利用者はこれに含まれていないので、実際はこれ以上の方にご利用いただいています。9月末のJR土讃線の不通を考慮しても大健闘ではないかと思います。引き続き500人の利用に向けてPRを行っていきます。

2. 地方別利用状況

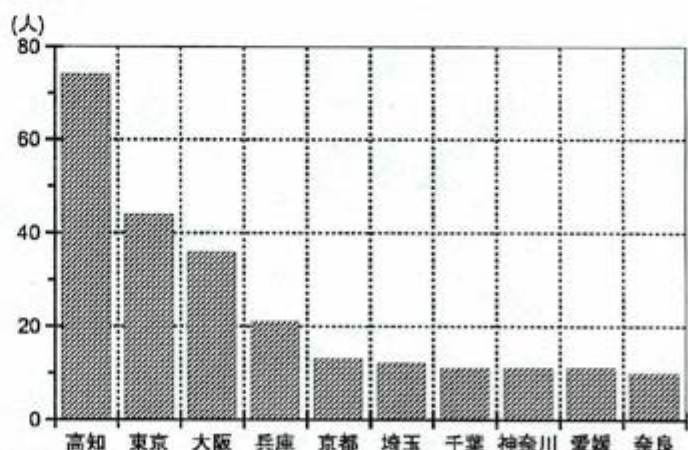
表①は、地方別の利用状況です。最も多いのは、近畿地方と四国地方が同率の30.4%、その次は、関東地方の29.7%となっています。



表① 地方別利用状況

3. 都道府県別利用状況(上位10位)

表②は、さらに各都道府県別の利用状況を、上位10位まで示してみました。1位の高知県は別として、東京都からの利用者が約40名にのぼり、大阪府や兵庫県を上回っています。



表② 都道府県別利用状況(上位10位)

*「四万十りんりんサイクル」の特徴は次のとおりです。

①4ヶ所のターミナルなら乗り降り自由

②最新の21段変速のマウンテンバイク100台を配置

③勾配がほとんどなく、中村駅から上流に走ってもラクラク etc...

四万十の豊かな自然に触れながら、自転車で走ってみると新たな感動に出会えます。今回の走行コースや各ターミナルを紹介したロードマップを作成していますので、ご希望の方は、観光振興課、または四万十川対策室までご連絡ください。

「四万十川源流点の森づくり」

秋晴れの10月25日(日)。総延長196kmに及ぶ大河四万十川の源流点、東津野村の「郷土の森」で、「四万十川源流点の森づくり」が開催され、高知市からのバス2台を含む約100名の方の参加をいただきました。

雨は陸から川そして海へと流れます。その起点である山(森)を保全することは、豊富な水量、澄み切った清流を守り、さらに海の生き物を育てる為にも、とても重要なことです。近年、四万十川流域でも管理が不十分な森林が増加しており、四万十川に大きな影響を与えています。

今回は、杉などの針葉樹約100本の間伐と、針葉樹の間にカシやケヤキなどの広葉樹約500本植樹し、あわせて樹種の名札付けを行いました。ぜひ一度源流点へおいでください。



●東津野村「郷土の森」での植樹風景

四 万 十 情 報

第6回四万十川大学院 開催 《11月13日(金)～14日(土)》

会場: 新ロイヤルホテル四万十・四万十の間(入場無料)

第1部(13日): 流域市町村の子供達による意見発表会、女優の宮崎淑子さんの四万十大使就任式と橋本知事との対談

第2部(14日): 「生態系」「水・景観」「生活文化・流域振興」それぞれのテーマについて、パネラーによる意見交換や分科会形式でのグループ討論

-Topic- 約1,600人が力走! 「第5回四万十川ウルトラマラソン大会」

十和村～西土佐村～中村市の四万十川流域3市村間を走破する「第5回四万十川ウルトラマラソン大会」が、10月18日(日)に台風一過の秋晴れのもと行われました。今年の大会は、国際ウルトラランナーズ協会(IAU)公認の「IAUワールドチャレンジ大会」も同時開催され、19カ国113人の招待選手を含む1,581人の選手が秋の四万十路を力走し、国際色豊かな大会となりました。

次章(12月10発信)は、「宮崎淑子さん四万十大使に就任」を予定。

清流通信「四万十川物語」第20章 (H10.12.10)

送信者：高知県四万十川対策室 tel(0880)23-9795 /fax(0880)23-9296

宮崎淑子さん「四万十大使」に就任

去る11月13日に、四万十川下流の中村市で、女優で御活躍中の宮崎淑子さんの「四万十大使」委嘱式が催され、橋本知事から宮崎さんに委嘱状と名刺を直接お渡しし、就任への御礼と四万十川への御支援をお願いしました。

「四万十大使」とは、各界で活躍されている著名な方々に、四万十川の応援団長として全国の方に四万十川の魅力を伝えるとともに、自然保全を呼びかけていただくため、高知県知事が委嘱させていただくものです。



●四万十大使就任の挨拶を行う
宮崎淑子さん。後方は橋本知事



●四万十大使、宮崎さんの名刺

(註)宮崎さんの「崎」は、名刺に書かれてある字ですが、ワープロ機能上やむえず「崎」で表示しました。

宮崎さんは、NHKの「生きもの地球紀行」のナレーターとして世界各地の自然に触れられ、自然保全への深い御理解をお持ちになっておられます。

式には、橋本知事から「宮崎さんが四万十大使に御就任いただき、非常に心強い。」とエールを送り、宮崎さんからは「まず四万十川の魅力を自分で体験していくことから始めたい。」と抱負をいただきました。

※四万十大使には、歌人の俵万智さんにも御就任いただいております。

Topics

「清流四万十川総合プラン21」 第4回「計画賞」の優秀賞を受賞！！

東京の千代田放送会館で、日本計画行政学会の第4回「計画賞」最終選考会が行われ、高知県の「清流四万十川総合プラン21」が優秀賞に選ばれました。「計画賞」とは、社会の様々な分野の問題に対して、先導的な計画を発掘することを目的とし、第4回目の今年には、全国各地の自治体等から17件の応募があり、最終選考に残った9件の中から選ばれました。(担当：四万十川対策室)

四万十産直情報 「お正月セット」

都会でお住まいの皆さん
や知人にいかが！

- ①内容 門松(1)、鏡餅(1)
各種小餅5個
- ②代金 5千円(送料込)
- ③締切り 12月15日
- ④発送 12月28日(予定)
- ⑤連絡先 四万十里便りの会
(西土佐村口屋内民宿せんば内)
tel(0880)54-1002 fax(0880)54-1078

次章(1月10日発信)は、「新年への夢(仮題)」を予定しています。

清流通信「四万十川物語」第21章 (H11.1.10)

送信者：高知県四万十川対策室 tel(0880)23-9795 fax(0880)23-9296

～北の友からの年賀状～

新年あけましておめでとうございます。21世紀まで2年を残すだけとなりました。皆様は21世紀の扉をどこで開けられますか？

さて、今日は私に届いた年賀状のお話です。私の注釈なしに、その要旨をご紹介します。

『漁民による植林活動【森は海の恋人】運動も10年が過ぎました。ブナ、ミズナラ、トチ、クリなどの広葉樹の苗は、兎やカモシカにその芽を何度も食われながらも、めげずに翌年には新芽を再生させ、彼らの口の届かないところまで背を伸ばしています。その生命力には驚かされると同時に、生きる勇氣さえも与えてくれます。十年間で植えた木は二万本に達し、大きな森になりつつあります。目標は十萬本の森です。あと何年間かかるでしょう。今年も6月第一日曜日を植樹祭と決めておりますので、皆さんも「牡蠣の森」に植林に来てください。

森が大きくなるにつれて、気仙沼湾に注ぐ大川も年々きれいになってきました。川ガニやウナギなども姿を見せるようになってきたのです。そのためでしょうか、牡蠣や帆立貝の成長もよく濱は活気づいています。(中略)そんな中、リアス式海岸の「リアス」という大切な言葉の意味を知らないでいました。「リアス」とはスペイン語で「潮入り川」という意味です。私はその本場スペイン・ガリシア地方へ二人の息子と出かけました。それは、パンドラの箱が開くとはこういうことかと思わされるような新発見の連続でした。その模様は、文芸春秋社より「リアスの海辺から」という題で5月に出版されます。ぜひ書店で手に取って見てください。』

この年賀状の送り主は、宮城県で牡蠣養殖をされている畠山重篤さんという方で、フランスの自然海岸での牡蠣生息状況を見て、日本で初めて森と海のつながりを提唱された漁師さんです。畠山さんの「漁師が山に木を植える」という言葉とともに、今や「森は海の恋人」運動は全国に浸透し大きな影響を与えています。四万十川流域でも「清流の森づくり」や「源流点の森づくり」を実践していますし、四万十川河口海域にクジラが生息している状況から、「クジラと出会える森づくり」のような名称で、継続して取り組みたいと考えています。

畠山さんは今、この運動を子ども達に理解いただくため、教科書への掲載に取り組んでおられます。フランス、スペイン、北の宮城から南の四万十川へ！畠山さんが蒔いた芽はどんどん広がっております。この出会いをいつまでも大切にしていきたいと思っています。

(文責：市原利行)

畠山 重篤氏

・宮城県唐桑町字西舞根133-1

(有)水山養殖場主

牡蠣の森を募う会代表

・TEL:0226-32-2174 FAX:0226-32-3269



●源流点の森づくり(H10. 10. 25: 東津野村)

次章(2月10日発行)は、「四万十菜舎」を予定しています。

清流通信「四万十川物語」第22章 (H11.2.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(0880)23-9795 fax(0880)23-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

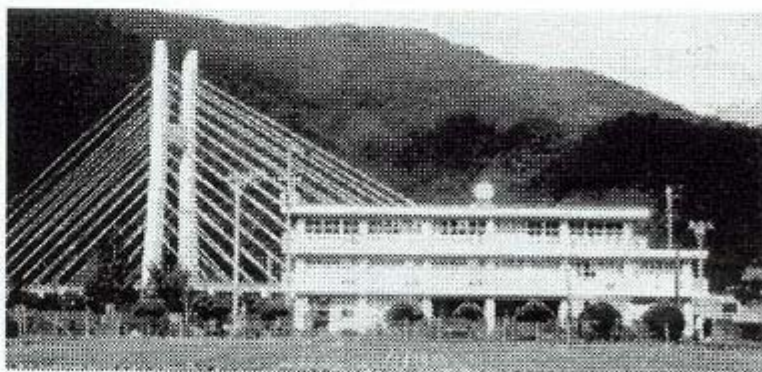
四万十川に新スポット誕生！

～遊び、学び、楽しむ交流拠点「四万十楽舎」4月オープン～

四万十川の中下流域に位置する、高知県西土佐村。10年位前に休校となっていた小学校を、恵まれた自然環境を活かして、人々が遊び、交流する楽しい学び舎「四万十楽舎」が、4月からスタートします。この計画は、前県立高校教師の山下正寿先生が中心となって進めてこられたもので、多くのメニューが準備されています。

写真で見る限り、都会風のイメージとなっていますが、高校生による壁画の製作や、周囲に柿の木を植える等、自然にとけ込んだ施設として変わっていくものと思います。すぐ下には四万十川が流れ、キャンプ場や沈下橋もあり、魅力一杯の場所です。ここを拠点に森へ、海へも足をのばすことができ、まさに森・川・海の体験が一度にできる施設です。

「四万十楽舎」は現在、会員を募集しております。会員の方には宿泊料の割引や情報誌の送付等特典があります。多くの方の御入会をお待ちしております。



●「四万十楽舎」全景。後方は四万十川唯一の斜張橋

四万十楽舎へのお問い合わせは

(2月末まで)

〒786-0601 高知県幡多郡西土佐村

江川崎2445-2

西土佐村役場内 四万十楽舎準備室

TEL(0880)52-1111 内線63

(3月から)

〒787-1323 高知県幡多郡西土佐村

中半408-1

四万十楽舎 TEL(0880)54-1230

四万十川情報

「第3回四万十川清流の森づくり」開催

1. 日時 3月21日(日) 10時～15時30分
2. 場所 橋原町太郎川(雲の上の温泉西側)
3. 参加費 無料(高知市から無料バスを運行。)
4. 連絡先 橋原町役場環境整備課「清流の森づくり実行委員会」(0889)65-1111

次章(3月10日発行)は、「四万十りんりんサイクル本格営業開始」を予定。

清流通信「四万十川物語」第23章 (H11.3.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(0880)23-9795 fax(0880)23-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

『四万十りんりんサイクル』本格営業スタート

～四万十川が、もっと近くなる～

四万十川下流の中村市～西土佐村間約4.5kmで、4箇所のターミナル間で自由に自転車の乗り降り(いわゆる乗り捨てレンタサイクル)ができる「四万十りんりんサイクル」の本格営業がスタートします。

昨年約3ヶ月間実施した試行では、9割以上の方が「またぜひ利用したい」と回答をいただきました。今回は5月の連休や夏休みを含む約8ヶ月間営業いたします。

サイクリングルートは、四万十川沿線の中でも最も四万十らしい風情を堪能できるポイントが多くあり、名物「沈下橋」は6箇所あります。道路の傾斜は、1km走っても1mしかアップダウンしない緩やかなコースなので、中村駅から川を上っても全く疲れません。21段変速のマウンテンバイクを常時100台準備していますので、快適なサイクリングを楽しめます。



●爽快な四万十路でのサイクリング

営業内容

①実施期間

平成11年3月20日(土)～11月30日(火)

* 定休日 毎週火曜日

(ただし、4月28日～5月6日、
7月10日～8月31日は無休)

* 臨時休業 10月16日(土)、17日(日)

②営業時間

8:30～17:00

③料金

半日(4時間未満)… 600円

1日(4時間以上)… 1,000円

* 以降、1泊につき1,000円追加

④実施方法

次の4箇所のターミナル間で自由に乗り降りができます。

・ JR江川崎駅
(四万十川ふるさと案内所)

・ 西土佐村観光協会カヌー館

・ 西土佐村口屋内「味の館」

・ 土佐くろしお鉄道中村駅

(中村市内観光については、駅前の中村市観光情報センターでお願いします。)

⑤レンタサイクル予約先

西土佐村観光協会カヌー館

TEL(0880)52-2121/FAX(0880)52-2424

四万十フレンドシップ倶楽部

ーいよいよ締め切り迫るー

四万十川保全のために、御支援、御協力をいただける全国の個人・法人の方々が、約930名入会いただいています。

3月末で募集を締め切りますのでお早めどうぞ！

問い合わせ先：四万十川対策室

四万十楽舎オープン！

廃校舎を再活用した自然体験拠点施設「四万十楽舎」いよいよ4月1日にオープンします。それに先立ち、オープニングセレモニーを開催します。記念講演や四万十川での結婚式、凧や木工品の無料体験教室などが開催されます。

・ 開催日：平成11年3月20日(土)～21日(日)

・ 場所：西土佐村中半 四万十楽舎(旧中半小学校)

・ 問い合わせ先：四万十楽舎準備室 tel(0880)52-1111

次章(4月10日発信)は、「版画家・山本容子さんの四万十大使就任」を予定。

清流通信「四万十川物語」第24章 (H11.4.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(0880)23-9795 fax(0880)23-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

版画家・山本容子さんが四万十大使に就任

各界で御活躍の著名な方々に、四万十川の魅力の紹介や、全国から四万十川への支援を呼びかけていただく「四万十大使」に、版画家の山本容子さんに御就任いただきました。



●就任式の様子。左が山本容子さん、右が橋本知事。

山本さんは、高知県、四万十川とご縁が深く、~~鶴~~四万十ドラマが平成9年に出版したエッセー集「水」への寄稿や、平成10年9月には、中村市で開催された四万十川僻村塾(塾長:月尾東大教授)

に講師で招かれ、四万十川でカヌーの体験をされております。

さらに、「第4回高知県国際版画トリエンナーレ展」(高知県伊野町で開催中)の審査員を務められました。

高知県知事室で行われた就任式では、橋本知事が山本さんに委嘱状と山本さん自筆の四万十大使の名刺を手渡した後、「大上段に構えず、自然な活動の中で四万十川の良さを伝えてください。」と支援をお願いしました。

山本さんは、「四万十川を日本人みんなの心の故郷になるように、自分の作品を通して訴えていきたい。」と抱負を語っていただきました。

* 四万十大使には、山本さんの他に歌人の俵万智さん、女優の宮崎淑子さんにも御就任いただいています。

イベント情報

アメゴ釣りな祭開催(高知県大野見村)

- ・平成11年4月18日(日)小雨決行(雨天4/25日)
 - ・参加料(当日) 大人2,500円、小人1,200円
 - ・受付午前6時～、釣り開始午前7時～
 - ・宝探し大会(小学生以下)午後1時～
 - ・アメゴつかみ大会(小学生、婦人対象)午後2時～
- 問い合わせ:大野見村役場産業課 TEL0889-57-2023

四万十りんりんサイクル

これからの四万十路は、新緑が鮮やかです。ゆっくり自転車で走ってみませんか。四万十川下流域の45km区間で、4カ所のターミナル間は乗り降り自由(いわゆる乗り捨て方式)です。

予約先:西土佐村観光協会カヌー館
TEL0880-52-2121 FAX0880-52-2424

次章(5月10日発信)は、「鯉のぼり四万十川渡し」を予定。

清流通信「四万十川物語」第25章 (H11.5.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(0888)23-9795 fax(0888)23-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

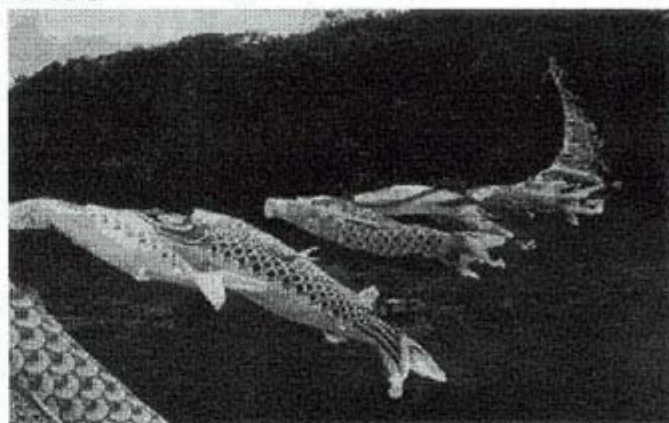
鯉のぼりの四万十川渡し (十和村)

四万十川中流域の十和村十川(とおかわ)地区で、初夏を告げる「鯉のぼりの四万十川渡し」が4月18日より始まりました。

色鮮やかな約500匹の鯉のぼりが、鯉のぼり公園の上空、四万十川の兩岸を結ぶ長さ約600mの2本のワイヤーに取り付けられて、新緑の四万十をたくましく泳いでいます。

この川渡しは「十川体育会」(松元忠重会長)が昭和49年に、子供達の健やかな成長を願って、使われなくなった鯉のぼり約50匹を集めて四万十川に渡したのが始まりです。故郷を離れた

村出身者が「子供が大きくなったので、故郷の川で泳がしてほしい」という想いで送られたり、テレビや新聞などで知った全国の方々から続々と送られるようになりました。風雨にさらされ傷つき、揚げることができなくなった鯉のぼりは、数年に1度開催される供養祭で丁重に供養されます。(昨年に第3回目の供養祭が行われ、約700匹が供養されました。)



●四万十川の上空を泳ぐ鯉のぼり

全国で行われている川渡しの元祖ともいえるこの行事は、JR十川駅下車、上流に向かって約200mの国道381号線沿いで見られます。(5月15日まで)

四万十情報

◎四万十川良心市場 ～四万十の幸を届けます。～

四万十川中流域3町村(大正町、十和村、西土佐村)でつくる第3セクター「鯛四万十ドラマ」が、四万十川流域生産グループで作られた産品を通信販売でご家庭にお届けするシステムです。「なるべくそのまんまがいいのです。」の合言葉のとおり、商品は田舎みそ、卵、川のり、干し椎茸など、田舎ならではの自然で素朴なものばかりで、ご贈答にも最適です。

問い合わせは

鯛四万十ドラマ(TEL 0880-28-5527, FAX 0880-28-4875)

四万十りんりんサイクル

車では一瞬で通り過ぎてしまう景色でも、自転車に乗ってゆっくり走ってみると新たな発見に出会えます。四万十川下流域の45km区間で、4カ所のターミナル間は乗り降り自由(いわゆる乗り捨て方式)です。

予約先:西土佐村観光協会カヌー館

TEL0880-52-2121 FAX0880-52-2424

次章(6月10日発行)は、「四万十川シンポジウム」を予定。

清流通信「四万十川物語」第26章 (H11.6.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

5県の知事が四万十川に集合！！

～「四万十川シンポジウム」盛大に開催～

新緑の四万十川に、地方の变革に取り組む5県の知事が集い、これからの日本、地方のあり方を語る「四万十川シンポジウム」が、5月8日に四万十川最下流の中村市で開催されました。

会場には予定人数をはるかに超える700名が詰めかけ、月尾嘉男・東京大学教授コーディネーターのもとに、寺田典城・秋田県知事、増田寛也・岩手県知事、浅野史郎・宮城県知事、北川正恭・三重知事、橋本大二郎・高知県知事が語る「情報公開」「地方分権」「財政」「環境」「情報化」について耳を傾けました。

各県知事からは、「情報公開は、県政を住民と進めていくための重要な手段」、「環境問題は、土木や農林、商工分野等と併せて横断的に取り組むことが重要」など、次々に活発な意見が出されました。シンポジウムは予定時間を大幅にオーバーしましたが、率直な意見や意義深い提言に参加者はうなずき、時には笑いをまじえながら会場は熱気に包まれ、大盛況のうちに幕を閉じました。

また、奥様を伴われてのプライベートのひとつときには、四万十川を屋形船で下り、沈下橋近くの河原で地元の方々とともに、ウナギや手長エビといった四万十川の幸や藁焼き鰻タタキなどに舌鼓をうちながら、「自然と人のくらしが調和した四万十川」を、実感していただけただけようでした。

※なお、このシンポジウムの記録は小冊子にまとめる予定です。

アカメ保護Tシャツ完成

中村市在住で、四万十川の保全活動に取り組んでいる西内燦夫(あきお)さんが、近年、乱獲でその数が減り幻の魚といわれる「アカメ」の保護を呼びかけるために、「釣りキチ三平」の作者である矢口高雄さんの協力を得てTシャツを制作しました。Tシャツの背中部分に釣りキチ三平のイラストがプリントされています。(図柄は2種類、色は白・紺) 1枚2千円で、収益金はアカメ保護ポスター製作費に使われます。

申し込みは、FAXで西内燦夫さんまで。

FAX(0880-35-3822)

四万十源流点トキドキ体験村」開催 ～6/30まで参加受付中～

期間：7/27(火)～8/16(月) 20泊21日

場所：高知県立森林センター

対象者：3週間継続して参加できる小学校
4, 5, 6年生男女

募集人員：24名

参加費用：33,000円(食費及び布団代)

問い合わせ：四万十源流点トキドキ体験
村実行委員会(TEL0889-62-2258)

(高知県東津野村 教育委員会)



●シンポジウムの様子(中村市立中央公民館)

次章(7月10日発信)は、「やさしいエコ祭り」を予定。

清流通信「四万十川物語」第27章 (H11.7.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

高知に新しい“祭”誕生

～「よさこいエコ祭」に来てネ！～

高知で祭といえば「よさこい祭」。若者を中心にあふれんばかりのこの祭は、今や坂本龍馬、四万十川と並んで高知の三大ブランドの1つ。今年は46回目を迎え、全国大会を開くなどパワーアップします。

これに負けじと誕生したのが「よさこいエコ祭り」。よさこいのパワーを引き継ぎ、環境立県高知から全国へ、世界へ広がることを願ってこの夏ベールを脱ぎます。

キャッチフレーズは「一人ひとりの環境フェア」。この祭の特徴はNPOの方々を中心として行政がバックアップする手法で、資金もゼロからの出発です。まさに参加者自らが企画、行動してみんなで一緒に考える環境イベントといえるでしょう。

開催期間中の7月25日は「四万十川の日」で、県内外から全国へ四万十川を発信する日。宝酒造様にも協賛をいただき当室からも祭に出展します。多くの方の参加をお待ちしています。



よさこいエコ祭りの主な行事

①主催 よさこいエコ祭り実行委員会 ***入場無料**

②日時 平成11年7月24日(土)～25日(日)

午前10時～午後5時(25日は午後4時まで)

③場所 高知市布師田「高知ちばさんセンター」

④プログラム(予定)

☆7月24日(土)

●ロン・イズミタ氏(ラット・スカア建築家)による基調講演(午前11時～)

●橋本大二郎・高知県知事、渡和由・筑波大学講師
他によるパネルディスカッション(午後1時～)

☆7月25日(日)

●環境問題講演会マラソン

テーマ：「エコドライブについて」、「縄文文明とエコロジー」、「新しい省エネルギー」等

⑤その他 多くの出展の他、四万十川源流大野見村の「鮎寿司」販売、環境クイズ、ガーデニング教室等開催。

⑥事務局：ゆーエスケー(担当：岡添)

TEL 088-883-6788 FAX 088-883-9710

《足で稼いだ四万十川の記録が出版されました。》

『四万十川の今昔とあすへの展望』 小松千秋 著(文芸社発行:1,300円)

中村市在住の小松千秋氏が、四万十川の現状を見て「何とか手を打たなければならない」と考え、往事の四万十川の記憶を書き残すことで、四万十川清流保全活動の一助にしたいという思いから執筆。出版に際して、小松氏から「四万十川の清流保全対策に役立ててください。」との思いから、高知県に30冊、流域各市町村へ100冊の著書の寄贈と、四万十川ファンに浄財をいただきました。(各書店で販売中。当室でもお世話します。)

次章(7月25日発行)は、特別章「四万十2020」を予定。

清流通信「四万十川物語」

第28章 (H11.7.25)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

「四万十2020」

最近、新聞紙上などを賑わしている「20XX、又はXX20」。例えば「2000」「2002」「2050」「8020」「2020」があります。

- 「2000(ニミルヲル)」とは？ →20世紀最後の年。コンピューター2000年問題の年。
「2002(ニミルヲルニ)」とは？ →サッカーワールドカップ日韓共同開催、高知県体開催の年。中国にプロ野球発足か？
「2050(ニミルヲル)」とは？ →四万十川流域住民ネットワークがリードしている21世紀を担う子供達のグループ。2050年の四万十川のあるべき姿について勉強中。(四万十川新聞に度々掲載)
「8020(ハチヲルニミル)」とは？ →80歳で20本の歯を残す運動？(四万十と関係なし？)
「2020(ニミルニミル)」とは？ →高知県が策定した「清流四万十川総合プラン21」で、四万十川及び流域の目指す姿を明らかにした年。名実ともに四万十川が日本最後の清流となる年。

四万十川流域の2020年は「昭和30年～40年代のいい意味での田舎が復元され、高齢者も快適で生き生きとし、全世帯に情報化が普及している地域を目指しています。

時代はまもなく21世紀。今、国は「自然、環境」へと大きく舵を取りつつあります。

例えば…

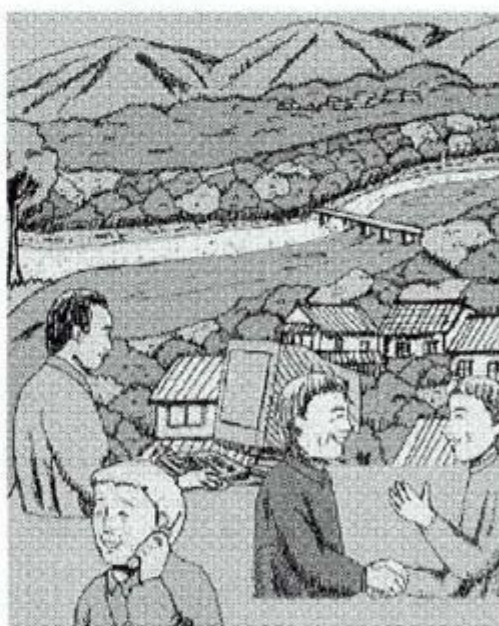
環境庁…公害、自然保護といった個別対応から、生態系の保全による生物の多様性の確保へ

農林省…環境保全型農業の推進へ

建設省…生態系の保全を視野に入れた環境土木工法の推進へ

林野庁…経済林主体から公益林重視への転換へ

文部省…学校の完全週休2日制を契機に、長期バカンス村の実施など自然体験学習の推進へ …etc.



●2020年の四万十川流域イメージ図

今日は「四万十川の日」。四万十川の「2020」に想いをめぐらせてみませんか？

(市原利行)

四万十川情報

①第2回四万十川霧の町写真コンテスト作品募集

1. 撮影範囲 窪川町及び四万十川流域
2. 応募資格 不問(年齢、職業、プロ、アマ問わず)
3. 審査 写真家 秋山庄太郎
4. 締め切り 平成12年4月末日(当日消印有効)
5. 問合せ先 窪川町役場企画室 TEL0880-22-3124

②カヌーツーリング「四万十しーちゃん物語」

1. 開催日 平成11年8月21日(土)～22日(日)
2. コース 西土佐村江川崎～西土佐村口屋内間約16km
3. 参加料 1グループ(4人以内)60,000円
4. 日程 1日目カヌー講習、2日目カヌーツーリング
5. 申込先 西土佐村産業課 TEL0880-52-1111(内線27)

次章(8月10日発信)は、「トロッコ列車清流四万十号」を予定。

清流通信「四万十川物語」

第29章 (H11.8.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

四万十の新たな特産品

①アコの「苅ずし」、「笹ずし」(大野見村)

四万十川上流域の大野見村では、同村の「四万十あゆ種苗センター」のアコを使った「苅ずし」、「笹ずし」の販売を始めました。

同村が、平成9年度に農林水産資源などを活用した村づくりについて考える「資源開発調査事業」を実施し、種苗センターのアコを加工販売することを示されたことがきっかけでした。大阪からの指導者を招いた料理研究会を開催した結果、12人が村の支援を受けながら商品開発に取り組んできました。

アコずしの素材は、種苗センターの薬品無使用アコ、同村産の有機低農薬米、ショウガが使われ、地元産品にこだわっており、作る方々の真心が伝わってきます。

「苅ずし」はアコをかたどった箱入りで1個千円。「笹ずし」は苅ずしを一口サイズに切った笹の葉で包んだもので、6個入り750円。同村の「四万十川源流の家」や近辺の道の駅などで販売されています。1日50個程の限定販売ですが、あらかじめ注文すれば作っていただけるとのことです。お問い合わせは、大野見村企画室・大西室長 電話(0889)-57-2021まで



7月24日～25日の「よさこいエコ祭り」にも出店しました。

②「四万十清流ビール」(東津野村)

四万十川の源流水を使って醸造された地ビールがこの度完成し、高知県下で販売開始となりました。

高知市内の地ビール製造販売会社が、「最後の清流」として名高い四万十川の水に注目。四万十川の源流点がある東津野村とタイアップして実現にこぎつけました。その名も「四万十清流ビール」。この源流水は四万十川支流北川の伏流水ですが、ミネラル分を多く含む超軟水で、この水を使用して淡色麦芽を糖化し、良質なホップを効かせた麦汁を低温でじっくり小発酵、熟成させることにより、黄金色に輝き、純白にきらめいた細かなあわを持つ「ピルスナー」タイプのビールが製造されます。

同村、産業建設課も「絶好の宣伝材料として期待ができ、ゆくゆくは全国ブランドとして育てたい。」と大きな期待を寄せています。

四万十清流ビールは高知市内のビアレストランの他、東津野村の国民宿舎「天狗荘」、窪川町の道の駅「あぐり窪川」等で販売しています。

お問い合わせは、東津野村産業建設課・掛水係長 電話(0889)-62-2311まで



取水現場近くの東津野村不入溪谷

トロッコ列車清流しまんと号

四万十川沿線に沿って1日1往復運転します。区間は下りが十川駅～江川崎駅間、上りが江川崎駅～土佐大正駅間です。乗車には指定券が必要です。運転日8月1日～31日、9月4日、5日、11日、12日、15日、18日、19日、23日～26日。お問い合わせは、各JRみどりの窓口まで。

四万十川をなめたらいかんぜよ!

今年も四万十川での不幸な水難事故が残念ながら相次いでいます。川で泳いだりカヌー下りをするときには、①川の状態を地元の消防署や観光協会を確認する。②集中豪雨やダム放流の時には川に近づかない。③自分の体力を過信しない。等、細心の注意を払ってください。

次章(9月10日発信)は、「火振り漁」を予定。

清流通信「四万十川物語」

第30章 (H11.9.10)

送信者：高知県四万十川対策室

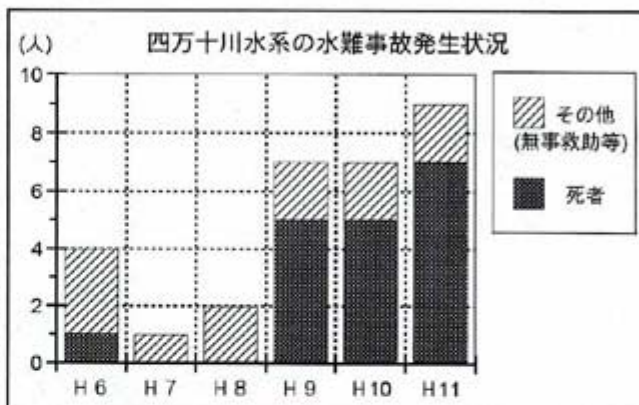
tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

四万十川は泣いている！

～身近過ぎるゆえの悲劇が今年も又～

夏も終わりに近づきました。この時期になると必ず新聞に出る記事が海や山の事故件数です。その中でも特に、神奈川県玄倉川でのキャンプ中の18人が激流に流された事故は、人々の脳裏に生々しい記憶として残っていると思います。人が近づかなければ、いや近づけなければこのような悲劇は起こらないわけで、川と人との関係を改めて考えさせられました。

翻ってわが四万十川です。今年8件の水難事故が発生し、7人が死亡というショッキングな結果になりました。『え！四万十川で人が死ぬ？』と感じるかも知れませんが、昨年一昨年も7件の事故が発生して合計10人が死亡し、地元新聞に最後の清流は「人食い川」とまで書かれてしまいました。もちろん観光客への警鐘として書かれたわけですが、事故が発生するたびに涙を流しているのは四万十川自身であり、是非とも水難事故の絶滅に取り組んでいきたいと思っています。



●高知県警察本部調べ(H11.8.16現在)

なぜ、四万十川で水難事故が次々に発生するのでしょうか。四万十川は時々洪水で怒った顔を見せますが、事故が発生した下流域は、普段は水面も穏やかで大変優しい姿を見せており、水難事故が発生するような川とはとても見えません。

しかし、事故原因として考えられるのは、

①全国から多くの人が訪れていること

②どこからでも川に近づくことができ、非常に身近な存在であること

③見た目には非常に優しい川と感じること

など、四万十川の魅力が逆に災いしているとも考えられます。

さらに、

④増水中や疲れた時に泳いでいること

⑤対岸に泳ごうとして流されたり深みにはまったりしていること
なども一因と考えられます。

高知県では、せっかく来ていただいた方々が悲劇に遭わないように今後最大限の対応を行います。皆様も無理な行動は絶対避け、四万十川を訪れた方は、地域の方々に危険箇所であるか、増水しているかなどを聞いてください。また、地域の人の注意の声に十分耳を傾けてください。これだけで事故は相当防げるはずです。是非多くの方々に事故発生の実態と注意の呼びかけをお願いします。

四万十川は今日も又、皆様を気持ちよくお迎えするため笑顔で待っています。

書籍のご紹介

「光っちょるぜよ！ぼくら」(文研出版 横山充男・作 福田岩緒・絵 定価1,300円)

作者の横山充男さんは宿毛市のご出身で、18歳まで中村市で過ごされました。この作品の舞台は1960年代の中村市で、四万十川のほとりで生活する小学生達の心の交流が情緒豊かに描かれています。今の子供達はもちろん、保護者の方にもぜひ読んでいただきたい作品です。

次章(10月10日発信)は、「火振り瀬」を予定。

清流通信「四万十川物語」

第31章 (H11.10.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

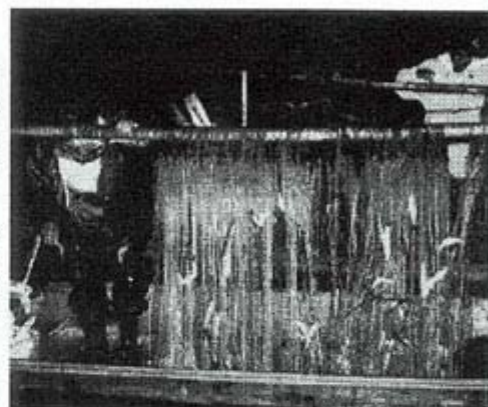
昔ながらの伝統漁法「火振漁」

四万十川流域には、代々受け継がれてきた独特の伝統漁法が数多く残っています。「ころばし漁」、「柴づけ漁」、「投網漁」…etc。なかでも暗闇の川面に明かりを灯し、鮎をあらかじめ仕掛けの網に追い込む「火振漁（ひぶりりょう）」は、四万十川の情緒を感じさせる漁法です。西土佐村口屋内地区で火振漁を行うということで、船に同乗させてもらいました。

まだ比較的辺りが明るいころ河川敷に向かうと、すでに七艘の船が付けられ、漁師さん達は網を仕掛けるポイントの抽選を行っていました。ポイントによって大きく漁獲量が左右するので、いかによい数字を引き当てるかがかかってきます。

すっかり闇に包まれたころ、それぞれのポイントに出向き、台図によってみんな同時に網を仕掛けます。網はゆっくり弧を描くように水中に落とされていきます。

それぞれ網を仕掛け終わると、全ての船は仕掛けより川下に集結し、いよいよ追い込みの始まりです。電灯を高い位置に取り付け川面を照らし、ほぼ一列に船を並べゆっくり進めます。船頭にいる人は竹の棒で水面を叩き鮎を驚かせ、船尾にいる人は鮎取りを行います。二人の「あうん」の呼吸を合わせながら、他の船と協力して鮎を追い込む様子は、火振漁ならではの光景です。



※網にガガった鮎

仕掛けてからほんの数十分しか経っていないのに、網を引き上げると鮎が続々と姿を現します。多いときには一日に30kg獲れることもあるようですが、今年は夏場に大雨が続き、鮎の餌となる川コケが石に付着せず、例年に比べ漁獲量は少ないとのことです。

それでも同乗させていただいた上戸さんご夫婦（民宿“せんば”を経営）の船では、3箇所に仕掛けて約60匹の漁獲がありました。この火振漁は禁漁期間になる前日の10月14日まで行われます。

四万十川ならではのこの素晴らしい伝統漁法が、後世にも未永く継承されていくことを願いながら帰路につきました。

第15回 水環境保全市町村連絡協議会全国大会・

水環境保全シンポジウム開催

「四万十川の生き物たち ～川と生態系を考える～」

日時 平成11年11月10日(水)

場所 中村市立文化センター

内容 記念講演 川那部浩哉京大名誉教授 他

問合先 中村市四万十川対策課 0880-34-1111

新エネルギーシンポジウム(正式名未定)開催

「環境に、人に優しい21世紀の暮らし方」

日時 平成11年11月11日(木)、12日(金)

場所 梶原町開発センター

内容 記念講演、連絡協議会の設立 他

問合先 梶原町企画調整課 0889-65-1111

次号(11月10日発行)は、「子どもはなぜ川で遊ばないか」を予定。